

(I) 図書館のこと

館長 町田 是正

図書館には大きく分けて二種類あります。その(一)は一般市民を対象にして、自由に閲覧貸借を認めている公共図書館、その(二)は大学や研究所に付属併設される研究保存図書館です。身延山学園の図書館が後者に属することは云うまでもありません。図書館は大学など研究機関の象徴であり、生命であり、後研究活動も意義も、すべて図書館の充実と深い関係があり、後に続く研究者・学生の養成にも深く関わっています。

身延山学園の図書館は、日蓮聖人並びに聖人の教学に関する典籍文書類、宗門史資料の蒐集、また法華仏教に関する文献資料、一般教養に必要な書籍を整備して、研究に供すると共に、後に続く人材の養成、殊に次代の宗門を担う法器の育英を目的としており、身延山学園の研究活動の中核となるものです。随って図書館は本来、公開性・公共性を有するものですが、学園の図書館が研究機関の一つである限り、公開性に一定の制限が付けられ、関係者外の入館閲覧には図書館の運営規定を遵守し

ていただく事になります。

昭和六十三年十一月二十九日、斬新な設計になる白亜の大図書館が竣工落成しました。これからは「知識の器」としての機能を發揮しなければなりません、その為には分類カードの整備、書籍（和書・洋書）の整理が必要ですが、この単調にして目立たない作業を成すためには、莫大な費用と努力、そして知力と時間が要求されます。加えて図書館は書籍の整備だけではなく、AV設備・他大学など研究機関との連携・公開文化講座の場も要求されており、常に多角的視野をもって運営されていかねばなりません。

図書館の完成に当って、法主岩間日勇祝下（学園総裁）は特に一文を寄せられ、「……学者の研究に供すると共に、後に続く人材の養成に役立たせたいと念じています。教育の効果は二十年、三十年の後に現われるものですが、法器の育英と人材の養成は今行わねばなりません……」と、有効に活用されることを熱望されています。

また建設事業の推進役をお執りになった望月一靖理事長（身延山総務）も所感を寄せて、「……身延山学園関係者一同、とともに同窓生の皆様の永年の願であった図書館が完成しました。……これからの若い人達に、新しい時代の雰囲気の中で、永遠の真理である法華経を、日蓮聖人のお教えを勉強してもらおう、いわゆる「温故知新」、それでなくては、これからの時代を背負って立つ僧侶は生れない……何卒意のある所を汲みとつ

て、充分利用していただくことを念願します」と、将来への飛翔を期待されています。

学園図書館は比較的限られた敷地に最大限の規模を追求した建築物で、積層式書架の採用によって二十万冊の蔵書収容を可能にし、而も現在だけでなく、近未来にも照準をあわせ、将来に予測される状況の変化にも対応できる最新鋭の設備を備えたフレキシブルなものとなっています。設計者の堀秀人氏は東京大学及び米国カリフォルニア大学の講壇に立つ研究設計者で、図書館には随所に斬新なフォルムが取り入れられている。工事施工は東急建設株式会社で、卓抜した施工技術をもって、RC構造五階建・延べ二千五百九十平方（七百八十四坪）を完成した。

私は当館の建設に合せるかの様に館長を拜命、併せ建設委員長を命ぜられました。完成に至る三カ年は長く感じ、身延山御当局的御支援、学園教職員の協力を得、仏祖三宝の加護のもとに魔障なく円成しましたことは望外の喜びとしています。まだまだ設備々品の充足がまたれ、書籍の整備が急務ではありますが、館員一同は異体同心に当館の運営に当ってまいります。関係各位の御利用と、併せ温いご支援を切に願っております。（平成元年三月十日）

Ⅱ) ◇図書館情報◇(1)

「坂本日深文庫」の寄贈を受く

立正大学々長・文学博士、故坂本幸男先生（法号・博文院日深上人）の蔵書一万点が昭和六十三年十二月二十五日、本学園図書館に寄贈された。坂本博士は我国仏教学界の重鎮として御指導に当られ、華嚴学の泰斗として知られ、印度学仏教学に関する博識は類を見ないものがありました。また法華教学・天台教学・日蓮教学についても造詣の深さを示され、岩波文庫『法華経』三巻の訳注はその業績の一端でありましょう。

坂本先生が生前中に蔵書された和漢書・洋装本・洋書・紀要雑誌などの中には貴重本も多く、御苦心して蒐集された稀刊書も多数含まれており、当図書館としても整理保管、利用に充分に留意しなければならぬ。

坂本先生の遺児・坂本静女史と身延山総務望月一靖師による譲与に関わる話し合いがスムーズに進められ、当図書館に納書される事となりましたが、「坂本文庫」の寄贈によって、本図書館の蔵書内容が質量共に充実拡大して、学園教職員・学生・本山役職員など、その裨益にあずかる所は大きい。心よく御寄贈を諒とされた坂本静女史の厚意に対して深々の謝意を申しあげ坂本文庫が有効且つ大切に永く活用されることを願うものであります。

◇図書館情報◇(2)

身延山の御援助と同窓生諸師の熱い篤志の御蔭で新図書館も竣工落成し、現在は教職員を始め学生諸君が利用しており、ま

ことに有難いことであります。

今年も図書献本運動に同窓生の各聖、また有縁の方々より御高配と御厚志を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

新図書館は蔵書のスペースにかなりの余裕もありますので、何卒これからも「一人一冊」の献本運動に皆様方の御協力をよろしく切にお願ひ申し上げます。

- 1 坂本 静様 『昭和六十三年度図書寄贈者御芳名
万冊。』
- 2 新川日見師 『原色版国宝』全十二巻、他二六六冊。
- 3 児島鍊戒師 『小西法縁史』他二十四冊。
- 4 塚本東壁師 『塚本清於庵句集』
- 5 谷川日龍師 『凹版美術集西洋名画シリーズ一』
- 6 上田本昌師 『心の扉を開こう』
- 7 進藤義遠師 『ブンダリカ』三冊。
- 8 渡辺信勝師 『日蓮聖人の世界—御本尊入門考—』
- 9 新井智済師 『近代日蓮宗の宗教』
- 10 木村了章師 『法華経大講座』全十二巻、他八冊。
- 11 中沢慈運師 『八宗綱要』他一七七冊。
- 12 松本光華師 『民話風法華経童話』その1、その4、二十冊。
- 13 渡辺日秀師 『心盤を作るのはあなた』

14 尾谷卓一師 『立正公論縮刷版』

15 上野好子様 『ふゆすみれ』二冊。

16 清水 南様 『アダムスキー全書』全八巻、他二冊。

17 石橋寿子様 『北と東の人間録』

ここに献本運動に御高配と御厚志を賜りました諸氏に衷心より御礼を申し上げます。

(Ⅲ) 研究活動報告

(1) 日本印度学仏教学会

第三十九回学術大会は、昭和六十三年七月二十五日・二十六日の兩日、北海道大学において開催された。本学からの発表者とテーマは左の通りである。

夜叉信仰の背景——パールフット・マトウーラを手がかりとして——
高橋 堯 昭

(2) 日本宗教学会

第四十七回学術大会は、京都市の仏教大学を会場として、昭和六十三年九月十四日・十五日・十六日の三日間にわたって開催された。本学からの発表者とテーマは次の如くである。

金網集の一考察——抄出の当体義抄について——

中 條 曉 秀

(3) 日本仏教学会

昭和六十三年度学術大会は「仏道の大系」を共同課題として、十月一日・二日の両日にわたり、叡山学院（大津市坂本）を会場にして開催された。本学からは林是晋氏が発表を行なった。

身延山における守護神信仰の動向

林 是 晋

(4) 日蓮宗教学研究発表会

第四十一回日蓮宗教学研究発表大会は、昭和六十三年十月二十一日・二十二日の両日、熊本市の本妙寺において行なわれた。なお今回は一妙院日導上人の第二百遺忌にあたるため、上人ゆかりの本妙寺が会場となった。本学からの発表者は左の六氏であった。

(1) 特別記念講演

綱要導師の宗学意識

町 田 是 正

(2) 通常の発表

智願撰述書の諸問題

若 杉 見 龍

本妙日臨律師伝の研究

桑 名 貫 正

甲斐における日蓮宗の守護神信仰について

林 是 晋

従地涌出

高 橋 堯 昭

身延山における宗祖の信行

上 田 本 昌

(5) 仏教文化講座

本年度の「仏教文化講座」（公開）は、十二月七日（午後一時

～三時）開催された。講師は仏教救援センター事務局長・静岡市倉長寺住職伊藤佳通師、テーマは「仏教と国際協力」であった。

(Ⅳ) 昭和六十三年度 卒業論文

日蓮聖人の末法観

天 野 宏 俊

日親上人伝についての研究

飯 塚 一 孝

日持上人伝についての研究

石 井 見 祐

日蓮聖人の靈山往詣思想の研究

井 上 裕 代

日蓮聖人の地涌の菩薩観

浮 穴 海 浄

日蓮大聖人が学んだ天台学

蝦 名 英 良

身延・七面山における山岳信仰についての一考察

遠 藤 一 茂

富木日常上人伝についての研究

小 川 智 弘

武田信玄と身延山

風 間 義 敬

日蓮聖人の布教の研究

加 藤 鍊 暢

唱題成仏論についての考究

菊 川 泰 堂

四条門流における分派理由及びその時代の状況について

木 谷 恵 健

日蓮聖人の念仏批判

酒 見 良 清

唯識思想の淵源とその展開

田 代 寛 静

日蓮聖人の上行自覚

中 曾 根 勇 詮

法華経における行法観

日蓮聖人の罪の自覚

富士門流初期の展開と日興上人滅後の分裂

常不輟院日真上人についての研究

日蓮聖人の上行菩薩の自覚

後醍醐天皇と日像上人―後醍醐天皇の公許について―

日蓮聖人の唱題成仏に関する一考察

日像上人伝についての研究

久遠成院日親上人伝についての研究

日蓮聖人の叡山遊学期における信の確立

室町時代における日蓮宗の動向

中山海解

新妻鍊讓

西川弦徳

西田幸資

服部公俊

水野孝優

宮本大裕

山下聖之

吉田守治

吉田好夫

徐徳仙

以上